傍廂 6巻

下

特 1
1965

国立国会図書館　タイトル『傍廂 6巻』 請求記号 特1-1965

ガラス使用

傍廂巻之三目録

脇草 初ヲ
屠蘇ふ烏頭と加ふ 二ヲ
正月車始 四ウ
はるとつゝかるものけぢ免 ヨウ
石の鏃 七ヲ
いろは文字 八ウ
強盗と名の付くふ異ある人 九ウ
灰零 十ヲ
けぶ木 ヨウ
作者の名 十一ウ
得くるつぎ ヨウ
郭公 十四ウ
非理法權天 ヨウ
夢あせ戸 ヨウ
握符 五ヲ
そゝかぐき ヨウ
國分寺 分ヲ
廣成の失
くゞけ ヨウ
萬物 十三ヲ
韃靼國 十三ヲ
夜鷹 十六ヲ

国立国会図書館　タイトル『傍廂 6巻』　請求記号 特1-1965
ガラス使用

毒物 日ウ
劔刀名義 日ウ
普請作事 十九ヲ
言とらさらかゝて心とらゝゝゝ

特1 —1965

師翁の家例ハ非ハ無理之理ハ道理之法ハ法式なり權ハ權威之天ハ
天道之非ハ理ハ勝事 然ハ理ハ法ハ かつゑあさひぞ法ハ權ハ勝と
然ハ權ハ天ハ勝事 あさひぞといまれしへめでゝるきさゝ言お
れど天といまれしへとゝき 誤なり天ハ形象のうゑて靈なり 靈かけ
まべ物ハまべ物ハまべ命令せぞ命令せまべ權ハ勝ハあさひぞ
權ハかつハ神威のなぞ 所なり 貞丈師翁ハ享保二年ハすまて
天明四年六十八歳ぞうせまべ宣長師翁ハ享保十五年ハ生れて
享和二年七十一歳ハてうせまべ方ハ世を同くなるゝ互ハその著
述をえられざるゝ貞丈翁も宣長翁の書をえなびなべ天道天命
なぞ空論ハのさまゝきゝ宣長翁ハ貞丈翁の書をかゝぐえ給ひ

扱ハ古事記傳ハ貞丈翁の考を引用ひなり

屠蘇ハ烏頭を加ふ

延喜典藥寮式ハ屠蘇一劑治惡氣温疫辟邪氣云云 本草綱
目云屠蘇酒陳延之小品云此華陀方也元旦飲之辟疫病一切
不正之氣造法赤朮桂心防風菝葜蜀椒桔梗大黄烏頭赤
小豆以三角絳囊盛之除夜懸井底元旦取出置酒中煎數
沸挙家東向從少至大次第飲之藥滓還投井中歳飲此
水二世無病云云 ロ十年ぞうもうゝ 総安海上那挑子の郷ハ約人
あるて行て十日ぞうも所〻遊覧せ須かの異人のいゝ去年の秋
江戸ようゝ系来ゝたの弥ハ家かるて行付けハ去年の暮ハ

知恵の所々へ屠蘇ぐすりせふ毒ふ牝されて元日の朝悉く
あやまてる人多けれども所々絶ひがゝて元日の夜ふ出奔若
うゝもんかゝりける人ふ古法の烏頭を用ひ
ーちゝんさるをあるまじ死ふもなるべく烏頭を心得べ人てかゝるの
かゝらを剛ーるるもーもあるし長孫昌邦が云く
あるもーー敗醬をえひるべてひーれのもゝひるゝと干て茱萸ふ加へー
事ありとゝり敗醬ハ女郎花の根なり

夢あきせ

崇神天皇紀ふ會明兄豐城命以夢辭奏于天皇曰自登御
諸山向東而八回弄槍八回擊刀弟活目尊以夢辭奏曰自登

御諸山之嶺繩組四方逐食粟雀天皇相夢謂二子曰兄則一
向東當治東國弟是悉臨四方窓繼朕位とありまと仁德天
皇紀ふ昔有一人往兎餓宿于野中時二鹿臥傍將及鷄鳴牡
鹿謂牝鹿曰吾今夜夢之白霜多降之覆吾身是何祥焉
牝鹿答曰汝之出行必為人見射而死即以白鹽塗其身如
霜素之應也時宿人心裏異之未及昧爽有獵人以射牡
鹿而殺是以時人諺曰鳴鹿矣隨相夢也とありこの事珍洙
公風土記ふもあり夫木集ふ

あかせてやいもとりつゝんゆぐ玉の夢ぬの麻の結ぶよるく
おのゞ身ふ霜ふ夢やうゝんとろるぞゞふ麻ぞ

国立国会図書館　タイトル『傍廂 6巻』　請求記号 特1-1965
ガラス使用

古事記垂仁天皇段ニ問二其后一曰見二異夢一從二沙本方一暴雨零來
急浴二吾面一又錦色小蛇纏二繞我頸一如此之夢是何表也云云とれ
い皇后の兄沙本毘古の反逆ふをうて天皇を刺殺し奉れるそふか
と后はあるを為ふ天皇の御夢ふあるまてをびかゝ〜めへそ
そあるのまふ奏し給へ〜ば沙本毘古を討亡ぜ〜ふひ〜と伊勢物
語ふ世心つける光仁の城ふゝぬ夢がゝうちつるを太郎次郎い情ちく
つゝへてやうあると三郎がよに御男ゐてとんとあらせるるなり字治
大納言物語ふ字治殿の御夢ふ大かゝ〜ば二御覽ゞゝうけるを夢見
ある牛二御覽ゞゝと合せけまべあうゝ二沼緣ふゝく後ふゝうきれ
ゝ二伝それとあゝくなりの世ゝうゝて見いゝ代の帝の関白ふあり給ひと合

せけまべその如くあり給ひけるとき字治拾遺ふ伴大納言善男い
結浚玉那司ゝ從者ゝかの玉ふて善男夢見る西大寺と東大寺と
をまさげて立ゝうと見て妻の女ふあるをかゝる妻の云くそこのまま
ゝてさるまんぞゝめとあいまゝふ善男おどろきてよ〜見るゆ伏沼て
けるゝと恐れ懇ゝて主の那司ゞ家ふ沼向ふ祈ふ那司いきゝあるる
相人ゝゝけゝゞ日頃さゆせぬふ殊の外餐進て家庭取出て迎ひて
めーのゞせけまべ善男あやゝをゝて家とゝゝのゞせて妻のいひ
つるやゝふまさおどさんぞるやゝんと恐れ給へわゞふ那司ゞ云く汝やん
ぞゝゝき給る相の夢見てげりそまふよゝあき人ふかゝりけりかゝゞ大
伝ゆいゝるともあをいできてつゝをかゝあゝるる善男

縁ふつき上糸して大納言ふいるされとも犯罪をかうるる公風俗
通代醉者ふ占夢者とふありきべて正夢とおつるをべみぐう
ふ人ふ諸ふ夢ふ又人の夢と錯ふ也ふもあ者ふ夢べ
よさ夢ふとうあいふべきを見仏云霊の幸ひ助け後ふ上つ代より
皇朝のあるを外戒ふも周礼ふ夢者事之祥也とうて占
夢官もなり兼木ふもさるうびなり南唐近事圓夢となり

正月車始

延喜太政官式ふ凡元日天皇受皇太子及群臣朝賀辨官預
仰諸司辨備庶事装束辨史等行事前月十三日大臣預點
殿上侍従四人左右各二人少納言二人奏賀奏瑞各一人簡四位已上堪事者為之

奏聞定之とあり十二月十二日正月の万の経営を始て修せ
車始之さると後世ハ十二月八日とあり又後ふいるうて十二月ふ正月
の車始なるべ二月ふも正月の万納なるべき理之とて二月八日の万納
めとせーと又ハ後ふ二きぐあを失ひて十二月八日と二月八日と五日始
終を爭ひ論ずる万とあるまり

握符

師貞丈翁云く姙婦ふ安産の符と水初独出てのまーむ産べ赤子
ふ符と握ーて生まるという見修験者と取揚婆と心を合せて
まる万ふて軍将の腹心の士を使ふ同ドとつまーハ定る見
あるふさまーるなるべかる後村ふ歌を生て奇矣の思

国立国会図書館　タイトル『傍廂 6巻』 請求記号 特1-1965
ガラス使用

ひとすじに信じ恐るべし拒む敵方は城も所領も奪はるべし

はふとつのけぢめ

同じ先生の軍用記に神道傷道と好む大将は佛道と忌きらへ

小甲冑を外武器の類に梵字又佛像を外仏経の具を爪弾

して忌きらへりさて佛法に深く帰依の法士は法の大将とも

ともとむべきもの大将は法軍士の好む所に陸びきらへるを

もちひて法士と共に仏法を以て軍を治へべし是

時に仏法ふつふつとあれとはまれに今は始め大先生の言論比

類なし

そうかがき

伝濃州後の去年の雪深くそうふのうかがきそうふ孫べ道路の

がくそうの堀川後度百首に忠房

初あれそうふけるなりしの孫人そうふのうまで

この橇とは物の史記に泥行乗橇とあり孟康云橇形如箕擿行

泥上云如淳云以板置其泥上以通行路也と注せり正義云橇

形如船而短小両頭微起人曲一脚泥上擿進用拾泥上之物云

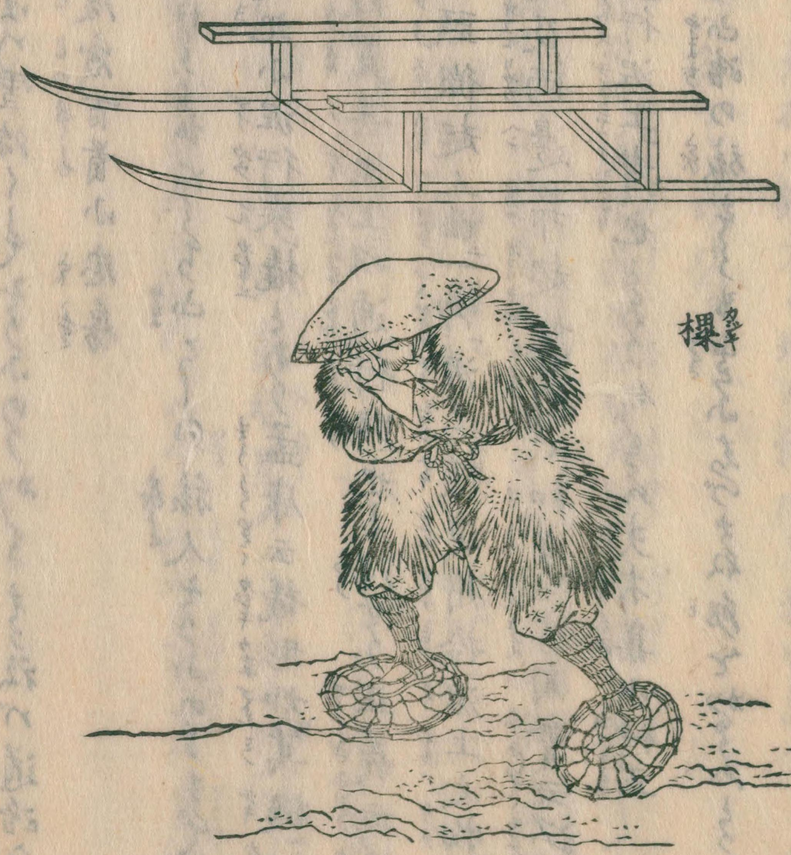
三才圖繪云前頭及両邊昂起如箕云和漢三才圖會云以板

為之其形如箕擿行泥上者也とありかがきの夫木集に仲正

かがきそうふの山路の孫そうふ孫べ所をかなしう

西行法師家集に

国立国会図書館　タイトル『傍廂 6巻』　請求記号 特1-1965
ガラス使用



あるちゝさらしくぐる谷もちくかゞきの乃をはくるゝ重

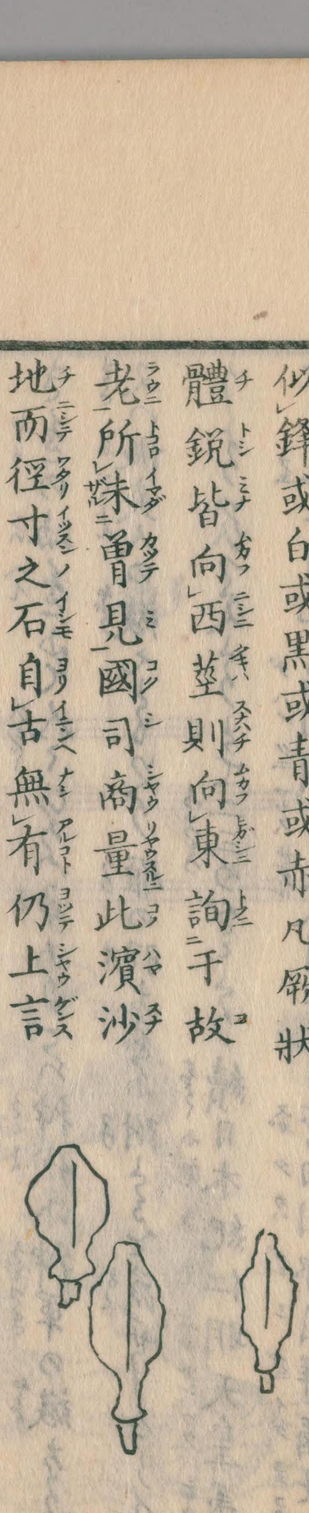
和漢三才圖會小其形似錐長半寸施之履下以為上山不躍跌也按知越州北地雪深而不來輙不能行不着樏不得上也

石の鏃

出羽国庄内の海の御内人素ゞ石の鏃もて来りて結てけるく近きさきの海を乘人ゝひろゝあり云ふ神代小神軍の鏃なりともまた又い飯夷人の鏃ともいふ雁の羽なるを附るを落せりなりんとむうるうひてゝうゝて二三めぐこうり續日本紀仁明天皇承和六年冬十月乙丑出羽國言去八月廿九日菅田川郡司解偏此郡西濱達府之程五十餘里本自無石而役月三日霖雨無止雷電

国立国会図書館　タイトル『傍廂 6巻』 請求記号 特1-1965
ガラス使用

鬪聲經十五日乃見晴天時向海畔自然隕石其數不少或
似鋒或白或黒或青或赤凡厥狀
體鋭皆向西莖則向東詢于故
老所殊曾見國司商量此濱沙
地而徑寸之石自古無有仍上言
者其所進上兵象之石數十枚
收之外記局勅曰陸奥出羽并太宰
府等若有機變隨宜行之且以上言
克制權變令禦不虞三代實録元慶八年九月廿九日出羽
國言六月廿六日秋田城雷雨晦冥雨石鏃廿三枚また仁和元年



六月廿一日出羽國秋田城中及飽海郡神宮寺西濱兩石鏃同二
年二月出羽國飽海郡神社邊兩石鏃我沼も白きなる赤色
あり黄きあり灰色なるあり黄をおびるもあり

國分寺

玉分寺の瓦なりと弦巻なる古瓦を去中なる坂出なるものもあり
こふもなる續日本記ふ天平十九年十一月己卯詔曰朕以去天平十三
年二月十四日云遍詔天下諸國別令造金光明寺法華寺云
又同紀ふ廢帝天平宝字四年六月云創建東大寺及天下國分
寺云なる續日本後紀仁明天皇承和六年六月勅國分二寺建
立自遠一則名為金明護國寺一則号為法華滅罪寺先

帝救世利物之法遠傳不朽者也その拙出を所の瓦ハ古新
のけぢめなるハ寺建立の遲速なるべしなり

いろは文字

書史會要ハ曰ク日本國於宋景德三年嘗有僧入貢不
通華言善筆札命以牘對名寂昭彼國自國字毋僅四十
七能通識之便可解音義この景德と云ハ外戎の宋の年
号ハて一條天皇の寛弘二年ハあるまつあるハ小兒の手習の始ハ
ハ孤波津淡番山の二首の歌を仮名とするハ古今集序ハも
源氏物語ハもなりて人のなる所多と二首ハ六十余字なりて同
字数多あるゆハ五十韻ハ多くなるもあるまとなるまバ後ハ色ハ匂へど

の今様ハ元ハ長歌ハ同字ハ多けれバ一つハ長く見とる事の始ハハ
なるべしいろはの二字ハ同字一つもなるハ又
五七言のなるべしとなるの人名ハもあるべし二句目一云ハ
やむことなきなるハ字ハ字ハ異ハ異きなるハ字ハ異ハ異ハ
書の字ハの異なれハ物ハなるべ搭書の異なるハ外戎人ハ
国ハ文字ハ異なるを日本の文字とハ云ハ
廣成の失

中臣祓ハ氏ハ家相並びて職業なるを中臣氏ハ益業ハ祓
紀氏ハ歌ハ古語拾遺をハ
せハ遺ハ使大伴遠祖天

忍日命師來目部遠祖天櫻津大來目帶仗前駈云と紀
せり大伴氏い常え久米氏いおうへる後の云ひ神代紀ふ
給ひを取るおうんさまとこづるる中臣氏い常え斜紀氏いおうへ
と称べ久米氏ともいるまびて大伴氏とひう並ふ書べきと脫ふ
皇孫の下と給ふ時い大伴久米れ同じうしと古事紀ふい天忍日
命大久米命と書く紀さまとう見ぞ上古のるき傳へる

強盜と名の附るふ異る人

砂石集ふ云る南都の強盜法師いおのを強盜の中ふ交りて人の家
ふり入時と奪ひ盜人どふ云て おのをいとうびきてあるとの盜人ふ
教まつぎふ教化して佛乃ふ云るあふ強盜法師と云り

又徒然草ふ云る柳原の強盜法ハ度く強盜ふ逢る者ふ世の強
盜法印と云れしと多い同じくて故いいく吳と砂石集い梶原平三
景時ど孫元俊法師の作と徒然草ハト紀兼顯のるの吉田兼好法
師の作ぢり

灰零

天武天皇九年六月八日灰零と御紀ふあり後續日本後紀仁
明天皇承和五年有物如灰從天而兩老農名此物米華おの
れ十歳の比安永八年十月朔日灰ふうるるのぐ覺えあり後十
日常の比天明三年七月江戸中戸陸ふ雲き震動して大空くく灰
ふうう人くあやぶまるる山焼うりとあん伝濃国浅ふ山焼うりとあん

国立国会図書館　タイトル『傍廂 6巻』 請求記号 特1-1965
ガラス使用

けま木

千葉葛野相撲丸へ遊歴してけま木といふ物もてうまうを後甲
ふ丸の場の中心ふ立る撫の根之中心ふ立る為よけま木といふ丸
詞ふてころ木とらへるゆえといふ実朝公のけれ木とこ絵ひしも見ふ
てよく笑やこうりをおりろきるえ紙若うし況甲斐丸ふ刑部
刑部刑部といふ人をこの所ふる季鷹縣主へ変く来りて物語ど
ころふ汐合てかこうゆ常ふりしふやけくわつふやあつぬらんといふ
ふ早九つの時ふやこうえこうふ義之古今集の甲斐ふのけまく横
こうふせるこかの金槐集のけまけ刑部がけくわつと茅合せり

くさけ

伊勢物語ふ

歌もあけべきこうふたあるんくさけのまぐれよあきてせるをやつる
こあるくさけをあく心沼て鶏の名と出へうくさい悩このこる紐ふてか
けが鶏の名こうをふいとうといふるも名ふいあうべかけといふべ死枕紐之
古事記ふ尓波都登理迦祁波那久とあるふ庭津鳥鶏と野津
鳥雉と対々ふよこ絵ひしこさるをかけふ家鶏の二なえといふるふむげふ
拙し上古ふ当音ハこうしあつつとも家ハケふてカふふ俗ふ用ひぞ漢
呉音の差別こうぬ人のいふゆえ又くさぐふ東西ふて家をくさぐといふの絵ふ
こうふもこうべ唐丸矮鶏遅羅南京ふむうへて百濟鶏こうといふこ
あこうふくさぐこうこう梵語知維倶吒といふも東國の斤田舎の賤女ふこ

似げなく況之又後くぐもて明故ふ闇鶏なりといへるさるみと笑ひ
れど孰云ふべう怪このしをいくるなれば腐鶏とう須狂鶏なりいふ
式なるべし古事紀ふ宇礼多久母那久那留登理加許能登理
毋宇知夜米許世泥云云とある打令病乞ふて打てなるませよといふ
云云万葉集ふ烏とぶ大なる又なるれそぎくおどあるもふくみ
のしるし遊仙窟ふ可憎病鵲夜半驚人薄媚狂鶏三更唱暁云云
きまべくぐへ怪このなる須ふてかけへるの名なり神楽ふ庭なる
みろとあきぬくとある如く鳴後より名なりしあり

作者の名

奇の集ふ天皇へ御名とかぬへいくまでもなし大臣も名をかぬへきふ

多なり親王へ御名をかけまどとをまべ紛まなし已後も其朝臣
とあまべ是又紛まなしつあまべ納云級下云後級上の上階の人く
と其卿とかまざりけん必卿とあるべきを五後級下と誤り並ふ名
を書放ちふせん多あるまど既不致なり

万物

禽獣虫魚草木砂石の類へ人の用ふ立べきなへふ二柱産霊神の
御恩頼なる成なるなり食料と肯なて薬品殿屋雑具器財
悉く人の用ふ立べくなまくのつさどり給へ神なへ二柱大神より任ド
給なる多御史ふ明なるさなる譚子ふ禽獣千人也何異有巣穴之
居有夫婦之配有父子之性有生死之情云云浄土文ふ魚在水

国立国会図書館　タイトル『傍廂 6巻』 請求記号 特1-1965
ガラス使用

中亦有二眷屬一腹中多子云云亦産の理屈ならん多く獸い子を生
るはのと親子の情あり げ ち ま ど成長しそいまゝざあある物ふあ
らぞかふもかくふも食料茶品器紙ふ用んゆんのひがとうあゝん
園菜畑菜も親あるなり兄弟なりあどぞいふも理屈へいそゝ物え
いとおろうちるゆゑぞありける

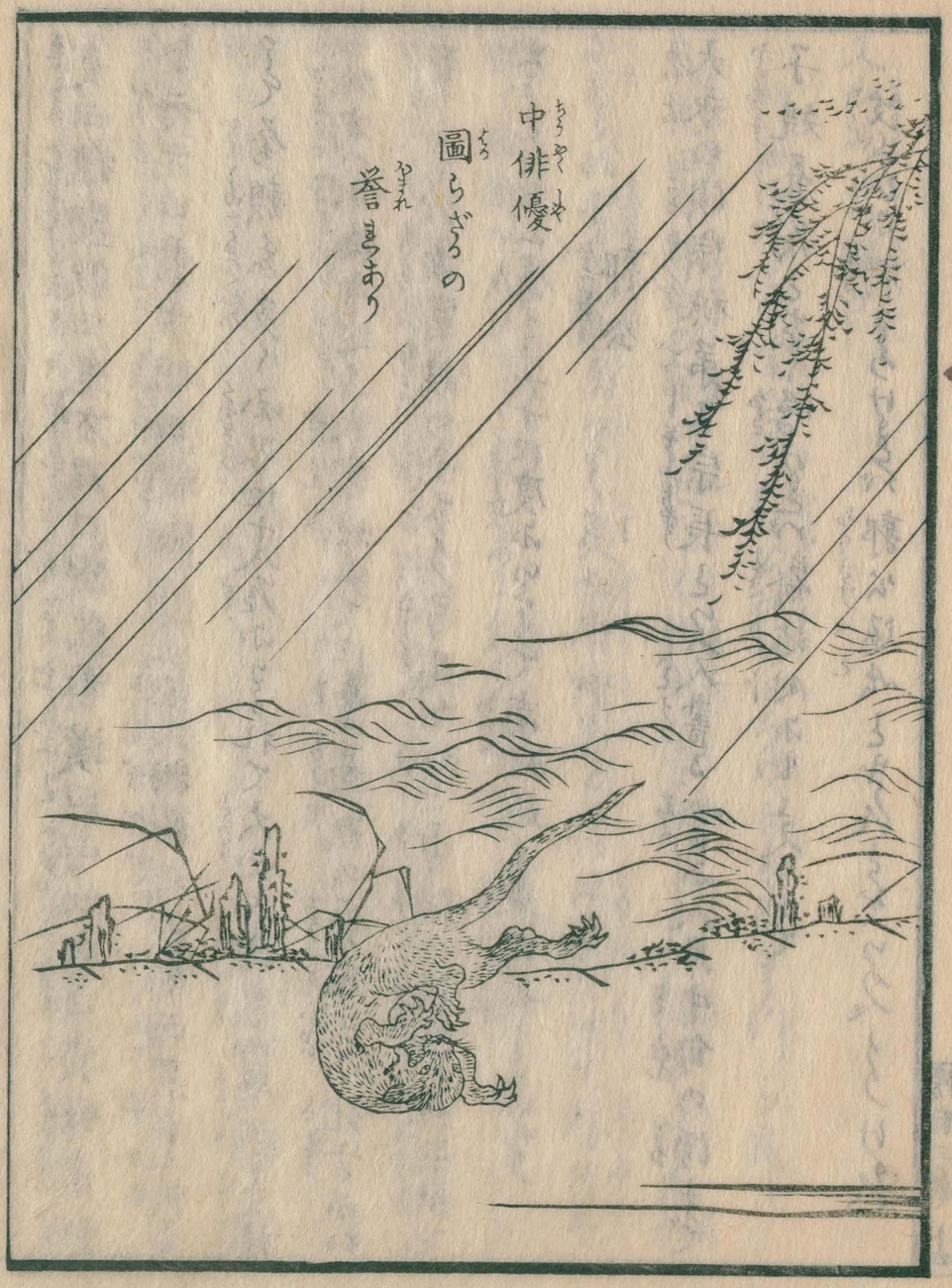
得ゝうぎ

得ゝうぎゆゑいやひもうみぬ幸なるゆゑ戰場の市川幸藥と
ゝうゝいと牧あるゝ役者なる時本所色の素人のもとふ招れ行る
ゞ彼文風ゑ強きふるなりゞきゝて かゝうきけて如へるふ刺下水の辺
ふて傘ありて駕籠とのせうゞ如くゝふとも せんうきゝ人ふ挑

打い風ふけられぬまびあゝゞきゝゝやと大変発して不気ふ中ゞゝし
てゝうふ近き色の人を殺を笑ておゞうき 鉄火まて来てみま
び幸義い傘さ一ぎきき一きふて立居るにふるぎう先
ふ踏上ふ強く打分らまて擲ひうう死一居うと先ん抜き役
者ちまびゆ常ふ上死役者よ投げらまて中ゝうちるゆゑれば
ゝうゞゞて兄ひうみぬきゝゝ死いきうゝえ死役者い中ゝふ及びゞし

韃靼國

天智天皇紀ふ蘓將軍与二突厥王子契苾加力等一水陸二路至
于高麗城下云云この突厥い即韃靼ちう韻會ふ金山狀如二兜鍪一
俗呼二突厥一通鑑ふ匈奴ともなり大明一統志ふも歴代名称各異



国立国会図書館　タイトル『傍廂 6巻』 請求記号 特1-1965
ガラス使用

夏曰獯粥一殷曰鬼方周曰猃狁秦漢曰匈奴唐曰突厥宋曰
契丹元曰蒙古明曰韃靼ニ十二ノ人物ノ説ハ東西黒白二種ノ
アリ蒙頼ノ多クハ界ニ十八ヲ分ツテ大ノ南界ハ唐土ノ交接
ス北方ハ氷海ニ近ク大寒地ニシテ春夏ノ長短大ニ北方ニ
カヲ最富饒ノ国ナリ弓馬ヲ好ミ勇強ノ風俗ノ北極地ト
ナルトニ十二度ヨリ六十ニ度ニ至リテ南北延ク東西長シトイフ

郭公

大永ノ頃宗祇弟子宗長トイフ人書ル書ニ八月中旬ノ頃ナリ
子規昼夜トナク啼ケレバ翁涙附ヲ入ルヽ
ヤ夫ニ物ヲ問ヒケレバ郭公返ヒトギヽトヾヽヽヽ

又山崎宗鑑ガ

カヽガヤヽヽ里ヲヨ郭公ヲ老ノウツケサヾヤマヽヽ

貞丈曰ク郭公ノ愛ハ愁ヘ物淋シキ者ニ聞ケバ好ミテ笑ヒ物
ヲ思ヒ嘗ノ愛ハ哀ヘ哭ヒ唐詩ニ杜甫ノ此愛ヲ笑テ愁情ヲ
生ズ故郷ヲ思ヒ出ル義ヲ作ル実ニ然ルベキカ
ヲ見ベシ分ハ時ヲ待ツ野山ニ出テ鳴ケレバ又初ヲ聞ケバ命ヲ
カヘテモ惜マヌ者ヲ人ヲ先ニ笑ヒヲ見ル実ニ風
雅ノ習ヒナリ俗情ヲ人トイヒ合ヒテ毛ヲ人ヲ先ニ笑
テ鳴ケレバ悲ヒ笑ヒ感ル心モ多クイヒ合ヒ
ヲ感ル心ノ発ル宗鑑ガ句ノ詠ハ人ヲ

子規の音殺とよく似るゆへにそれといまれうり彦鷹云く所
翁の説実ふかきゆゑなりきまと愁いくもゆゑくもおりろくもかゑ
ゑくも似ちん人の心の毒怒哀楽ふ隨ひてうふも笑おさる物おれ
びあおぐちふ鈍いきのこふもなうまで曙の空のけきこゑおゑ一殺
鳴てまふゆふぐまの村雨のままうふ名のり出るまどむげふ鈍い
くいまいえくい似ゑされぞさまど近きわうの木よやぎうて鳴うえ
いかいまいく逆上きるのこふて鈍いくいちい一毒芝切通ふ後ひ
しけるうあまうまの時多金地院山内の樹木よやぎうてひゆりんをう
まへてままうまうまると鳴うふ周ドきてかうらうたうちーう

夜鷹

夜發とゝる綫しれ遊女を夜鷹とゝるゆえ和名類聚抄
ふ恠鴟与多加畫伏夜行鳴以為恠者也とあり一名夏狐と云
不祥の怪多ありさて又同抄ふ遊女云
畫遊行謂之遊女待夜而發其淫
奔者謂之夜發云云今井良彪が
荏原郡戸越村より復ひけるひかうり
けうくうそがれのひまこ立のちがこうり
立出る音なり夜鷹よのけさまふ伏居けるを
人行かりぬまいこえて二三丈も遠て又始のごふを
しうちんかうちいたくまちれいば定ふ是ゑねどふくふみづまやあ

国立国会図書館　タイトル『傍廂 6巻』 請求記号 特1-1965
ガラス使用

らんとやまうまりと語まり是夜驚るべし俗ふるを有か
夜驚と号しふやあらん

毒物

薤不動石川村の産の
俗語のさへの芋村ふ
国ちまぬ芋花あり一を
求うるる農夫ふ以
はまべ毒物とるへて
いふけりるえるり
ふをのこるの芋ふも木

ふも大毒小毒あるいなまるとおるを是のを毒物とゝるいぶうきる
ちり漢名俗名なるべきをとゝるひつるふ後を筋ある物産医ふ用ひけ
まべ俗ふ毒の木とゝり漢名ハ木本黄精葉鉤吻とゝんいひける天
壁伝京の淀尻ふ芫花とゝひて毒物あり二月紫花を開く茨ふ紫り
二尺斗の小木ゝて紫荊樹ふ似うとあるもこまるべ

かるもの唱歌

皇朝ゝてかるもと号しハからくと唱る友之外戎ふて烏とも鴉とも号
しも歌ちりもゝて多獣の言ハ人の言語といぶひる言ちれゝ人れ
耳ふりていふも仗あさゝあり枕草子暁ぐふぐいまう忘
まてわりるふ烏のゝと近くかるとくふ續詞花集ふ

あんとの斤曜なる山がゝ今いかゝとぞ考へられけれ

吉野拾遺ふ

還幸とあくやより世の山がゝらも白くかゝしろの世や

ときは假名遣つまど考便い紙より万葉集ふハ

烏らぶ大おそ多の正子ふもきゝぬ君と子等來ぞおく

とあるも皆そ多とゝゝり

劍刀名義

或高貴の御まえ中ゆゝくつるぎハつゝぬきのでまうあう

[illegible]るとあるゝ[illegible]ハ断ゝつるぎ爰じて鎗とある刑男の具あり

[illegible]爰じて長刀とある是女又法師の器とゝゝり彦九傍ふ居て

云くゝ[illegible]ハ断ゝとゝゝるゝ爰ゝるぎをつゝぬきの反ゝとゝゝるハ

非之古事記ふ都牟刈之大刀とゝゝりつむがりハ俗云ふスッカリ スッパリ

おどゝゝるゝきゝゝ多之鹿嶋神宮の師靈劍も師ハよくきゝゝさ多

ゆて俗ふゝゝフツリとゝゝ爰之廣韻ふ師ハ斷聲也とゝゝり又劍も

ゝちも同一物ゝゝり爰ふも劍大刀腰ふ取佩おどゝゝるを又劍変

じて鎗とゝゝり大刀変じて長刀とゝゝるも非之鎗も長刀も衣

同ゝそ後世ゝゝれゝの器ハ神代ゝゝる拝ふてゝゝゝ劍大刀ゝゝ矣

ゝゝり又劍ゝ反ゝゝハ片刃ゝとゝゝるも非之劍大刀ハ上ふゝゝ如

反ふそも片刃ゝ長きハ大刀之緒刀ハ必片刃之さる為ふゝゝハ

刀とゝゝ腰刀とも相ゝる首ゝ刀とも[illegible]緒刀の反之刀ハ片之刃也

之及の反ハナ有り私の考へ浦きふまろせて考へ定めても為実ふそむ
ける縄いろけぐ〜とゝ人是バ加の人ひそゝろ

唐音

皇朝ゆて改め出さる漢音とりゝゝ外戎より給へ韻ゝと
ゝふハ非之大学論語おどタイカクリンギヨとよむハ漢音ゝり ダイガク
ロンゴとよむハ呉音之发ゝ皇朝改正の ゝ近ゝ加茂一周来ゝて
給てけゝく安永九年五月南京船安房ゆ千金渓ふ深ゝのゝ
江戸より藍田東亀年ゝゝ人ゝ行て唐人鄭侊とゝ人ゝ清ゝを
ふゝさへて大學之道在明明徳在親民在止於至善云とゝハ
游房筆話ふゝゝとかゝれり我いまぐゝの筆話を又ゝ一周ゝ

とゝゝきひゝり我門弟ゝり

普請作事

殿屋造営と普請とも作事ともゝゝるハ佛事ゝり出ゝる名目のゝ
下學集ふ普請諸人作事故云普請也ゝゝて和尓雅ふ佛
家謂營作家屋為普請敕修清規云普請之法蓋上々均
力也分付堂司者報衆掛普請牌云ゝゝ用ひんゝりハ
ゝりハ出ゝるまゝふて上ゝハゝのつゝり下ゝハやづゝりふてゝゝゝ

神罰

文化の始の比下総国海上郡銚子郷ゝり二三里ゝゝの在ふて或ゝの
夢ふ棟木と求めんとて近き色の小社の神木とゝゝる松を買て

きゝせけるふその松例まんとして傍
上ゆて斜ふ
附るまゆて
放まゝ
終ふ大松
中楠しるふ
愈付く栄え
う神さま寺絵
るふ大熟発して
六七月が孤ふ狂ひ死う木挽も

傍廂三巻 十九

大熟発ーぬまどひるまるふ助命と頼ひ命快のと神楽を奏せんもと
いひ木挽の職業やむべきよりゆて頼ひふ木挽ハ助命して我が
ひ為命ゆてなりしまり手松をるふ汐しふ楠の根ふう公尺も上ふ楠
う大まる松あるふつまてうしろうとうれば松の切口半月の如く左右ふ
見えまぐう栄えう又下枝の腹ふ古傍神社ふもまる動の多有ー
ふまるまと美濃ふ其村とるやゆてまるも寺院作事の為ふ近死れ
うのふ社の神木をきゝんとまるふ神さまゆまゝ神木を汚穢の修坊
ふせんゆ思ひもまゝとゝふ同汐うるる者の中ふ一人まるの者ふて
仏の四為まるの四為まゝ我ゆ神木を穢してまへ引せんとひてその欲
神木ふてゝまゝ死う像て切まてうるをまへ引ふ修修と修ふ同汐

国立国会図書館　タイトル『傍廂 6巻』 請求記号 特1-1965
ガラス使用

のこりまで大熱ゆえ死しうくびまで男い家内親族残る者ども亡びうり
又天保の九年の比尾張の名古屋ふて久米後兵清後十郎二人父後左
清つゞ死骸を東本町日蓮派本住寺の法化悦ふと人絡と中合せ
熱田神宮の一の鳥居を焼りぬけせを神恵を恐まざる文法の所行
ちうして悪く返放ふ所せうれうり世ふい弟有のをこの者もなる物多り
けり手者共のきてくいふちう汐けんその久米氏いる孫一郎悪く零
落して大乱暗ふて往来の人よ物乞ふゞくちうきそうよりきふも
我をへるなまび悪ちく笑うり返放ふ所せうれい顕露政事所化者
一族悪く零落せい神巫政事いちゞうれ故之恐まても恐るゞれい公の沸
掟之畏こそも畏むべきい神恵の沸定ちう

言をいきうかへて心といくかうる事

万葉集ふ

あゞの海人いめうう汝やきいをまちくげのをぐうるえをふ

是と伊勢物語ふい

をまの海人のめうう法やきいをまちくげのをぐもさび来けり

万葉ちうい髪あゞう解掃ふて伊勢物語ちうい化粧の差ぐしまち万

葉集ふ

おりうき世をうふやうて古屋ふ伝ひ家まで呼をあふるふ

是とかの物語ふい

武蔵世いけのいるやうて差ちの法まのうまう我もちうまう

国立国会図書館　タイトル『傍廂 6巻』　請求記号 特1-1965
ガラス使用

このゝいと先ゝ古今集ゝ初句素日壮ゝとありて筆のはまとゝゝゝ
とゝの物語ゝて男のゝゝゝゝ又万葉集ゝ

霊の緒とあて結ゝよりて結べゝべゝありて後ゝもあへざゝゝ先やゝ
見い猿魂の法術ゆて寿齢を堅く結べゝへあゝゝへ在て後ゝ逢んと
いゝゝあゝとかの物語ゆい下句と「絶ての後もあゝんとぞゝゝと世ゝ見い
玉を貫くゝ糸の絶切ても又後ゝ結び逢せんといゝゝゝかへゝゝて
ざゝがあまさゝりをゝてゝゝかゝりゝく笑ゝるゝのゝゝ

手のゝゝあゝの綸ひ

かのまゝゝゝゝゝ拙けまべゝきゝゝて書ゝゝゝゝゝ

を失ひて紀氏ともうす云語勝勝として唇舌こなされて物いふ如く人の耳ふ
ゆるるがごとき如一字称ぶくさやうふるえて維ゞ目ふもくくとまるはハ
ま数きハ字ふ五十言ふくこ数清濁明らふしてよく笑ひうる如く
ちを以てこのよりあハ次ちて云ひ語ちぎ彼名をちぶへぎてふをを
と礼さゞ云の言ちくをべくをべきちうをいちしてもそのかくみの
牡けをべちうあう心おちうせうて物よあんありけれ

くちづくえ

いふへ文字を世ふ口ふ相傳へて存して古語拾
遺ふあり天武天皇の御代ふ稗田阿礼ハ二十八歳ふして勅語の古事
を常ふ口ふ誦ち心ふ勤して忘れぎハ八十除歳ふして 元明天皇御前

ふて稽ちうる多言事紀序ふあり師説の傳ふ乗ちくいそれうそを
ちりへべ外戎漢文帝の時ふ伏勝充史ぶ九十除歳ふてくちづら傳ふ
大常固晁借を遣して古傳を稽ちる毛書ちあうちふ先稽蒙昧且鄙
言ふて通ドがうちを阿礼と伏勝ちふ同日の談ふあうべ

御位争

惟喬親王と清和天皇御諱惟仁と御位争ひふ紀名虎と伴善雄と相
撲の勝負を定め給ひしうへうへ訴もあきらのちを惟喬親王
い兼和十一年御延生ふて同十四年紀名虎卒去せうを文ようふ年を経
て嘉祥ふ年の比ハ清和天皇御延生同年十一月立坊なりて皇太子
ふちり給ひ八年を経て天安二年ふ文徳天皇崩御しをへ直ふ清和

国立国会図書館　タイトル『傍廂 6巻』　請求記号 特1-1965
ガラス使用

天皇御即位ありて爭ひ、孫のうへ、千度貞觀八年小伴黒雄眾ありて伊豆國へ流罪あり。見相撲小勝ありて僞ある贈ありて惟喬親王い貞觀十に年小病ありて出家沙門ありて寛平九年小薨給ひ御史ありて名清水小十度の競馬の日大内小名虎と名雄ぶ角力の日又東大寺小て紀僧正真濟と延暦寺小て惠亮和尚と精力ありて大威德と除こ世の祈ありて行ひ給ひ

ちん犬

矮犬をチンといひて狆字をあてゝ書ど狆い字書小狂也とあり。ちんの小犬のチンい字音小あらぬ。ちんの畧ちと皇朝の物ありて類聚國史小淳和天

皇天長元年四月丙申覽越前國所進渤海國信物并大使貞崇等別貢物又契丹大狗二口猟子二口在前進之ゝ皇朝小嫁犬ありゝ旅ありゝ

さくらぐり

さくらぐりい延喜祝詞式小高山の末短山の末ありさくらぐりい真下垂ふて水の落るつきもひとさるゝ奏物神道者のよむべき俗本小さくらぐりを佐久良谷と誤まりさるゝ近江丹山の色の川小櫻の瀧とゝをつくりてその外ゝ又ゝの大祓詞小大津邊小居大船乃云云とあるい船著の湊ありて近江の大津ゝ彼方の鯰木ゞりとゝくゝある彼方を山城の字治の彼方小附會せりまゝ近江栗太郡佐久那度の神社とさくらぐれ

国立国会図書館　タイトル『傍廂 6巻』　請求記号 特1-1965
ガラス使用

より所とするものを拵へ古事紀神代紀にも道饗祭祝詞にもあ
る久那度神ゆゑ此處より此方へ来ること勿れと宜給ひてあげ給ひし御杖
より生出給ひし神おれば莫来所の災なり真下垂とは大に異と

名ある藥

一病長寿の為に不死の灵菜は大同類聚方本草などにもありて人の
欲する所なると源氏揚巻に字治の大姫君今は昔薫大将の
恋こひて求める菜のゆゑにふ壺の山ふや返魂草にけり
とあるは釈迦因位に雪山童子と云ひし時千丈夜叉理を法を問ひし諸
行無常是生滅法と半ばて次は餓て死なんとせしを羅刹
に食ふと問へば血肉を食へとは童子我身をあたへんとせしに生

滅滅已寂滅為樂とを書へ童子は石壁へ書つけて父母に別ふ鬼の
はらに蓮花出て菩提と受とりこの鬼は帝釋天と阿含經に作りて
弟子と薫のたとへ給ひしは次の文に半ば偈を人けん鬼もるとと
づけて身もなげんとおもはせ心きとあれひてとろかりける云々とあり此
偈は涅槃經にありしかも仏法は死をつきとる物なれば右の菜も
とめえぬは似つかはしき数ふべきありけるさまでも毒菜を用ひべ那時ふ
死めるものと

朝夕

朝夕のおいの名の魚菜のなどと云ふは万葉集のかりそめ死より選
とつくりとあるまゆふのまとゆふ之間の反はあくい歌間さ

畳を畳間とゝも疵をとゝとゝも疵間の数と疵半の分文字ふゐ
づゝて源氏のゆとゝまゝ非あり

鯰尾槍

増鏡ふあり新井白石翁云ゝ條宰相中将さゝより召捕られぬゝ系
の家ふ伝りて鯰尾とゝやゝ刀ゝりけゝとゝの中将日記ゝりけゝるふて
かの浅系自害ゝりとゝゝゝゝゝ正應ゝ年ゝ月九日のゆふぞゝりけゝる
ゝゝ文字の如く造りゝゝゝ物をゝゝふやゝゝゝゝゝ彦膳ゝふゝ鯰尾
槍ハ今の長刀ゝゝゝべゝ白石翁ハ槍とゝゝふ疑ゝゝゝゝゝ

祭の看板を出せりいふ世ゝ[illegible]の為の神を屋ゝ[illegible]ふ神社ハ穆
と記ゝ[illegible]紀罪ゝ延喜式ハ凡齋王将入太神宮之時自九月一
日京幾内伊勢近江等國不得奉燈北辰及舉哀改葬とあ
ゝ日本後紀云禁今日祭北辰舉哀改葬等事以齋内親王
入伊勢也又續日本後紀ハ云禁京幾之内來月供北辰灯以齋
親王可入伊勢也かく裳を[illegible]ゝ外戎ハて[illegible]日月星を[illegible]
ひて日月を[illegible]とも星を[illegible]ハざ[illegible]ハ日神月神の畏く[illegible]
までも[illegible]早ハ[illegible]と[illegible]並ハあ[illegible]ぞ[illegible]やゝく雲霧も[illegible]
あるとゝ[illegible]ゝ外戎風[illegible]ハ[illegible]

神の使

細潟沉吉の神を八代〻日向ゝとゝふ好弘好祖今の好貞とゝふ二代ゝ
て秋門弟ゝかの為の海人ハ冬より春ゝみて白魚ハ[illegible]と漁れり年よ
ゝて[illegible]ゝ為人一同ハ神[illegible]ハ祈[illegible]ゝ[illegible]ハ
[illegible]ゝ鯉を二百本臺ハ居て神前ハ供ゝ神糸繰ゝて海ハ放ハ[illegible]
[illegible]ハ労ゝ[illegible]ゝ海ゝ入ゝ[illegible]ゝ如く沖の方ゝ[illegible]
[illegible]ハ沉吉神ゝ[illegible]ゝの神ゝの[illegible]ゝ白魚ハ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ゝ天照大神ハ猿を使ゝ[illegible]ゝ春日神ハ
鹿を使ハ[illegible]ハ石清水八幡神ハ[illegible]を使ハ[illegible]ハ稲
荷山の神ハ狐を使ハ熊野の神ハ烏を使ハ松尾の神ハ亀を使
ハ息吹山の神ハ猪を使ハ比の神ハ[illegible]を使ハ[illegible]ゝ外の

国立国会図書館　タイトル『傍廂 6巻』　請求記号 特1-1965
ガラス使用

神々もそこつにも所々ふるまひて吳之進さに下絵図和橋ち神の使者鹿を所の長六人ゆて打殺し咎ひらるふそ者どめ嘉くい他の家々とへぞぞ
ぬきゝ小一時ふ焼失せそ長六人同時ふ大熱発して同時ふ死亡せり其六
人の中ふい折々見受るもあり焼失のこと日るて和橋へらる附ふそ
焼跡をもそこり

羽倉在満翁の真蹟

武人在満翁の真蹟としてもあり之を傍ハちゝ義め垂つるを冥利
春顔が色めるかふ色紙の大きさ有る紙よ詩と懐紙の如くか
まこう春日遊小田原賦得海上眺望荷田在満昧蒙春日霞。渡
流海面波。阿婆登應見。遠山難追馬とかまこう見と昧蒙春日

霞渡流海面波阿婆登應見遠山難追馬この春日とまふふとこと
ぐこし又追馬の二字ハその一言ふ用るる万葉ふあり又馬のるとそ
かゝびとこゝろ者とひて馬追ふい業世の後ちあり

極樂地獄の繪

寺院ふなる所の極樂の繪い佛と始め諸菩薩も皆ぐう有ぬきく
南天竺の熱田のさるふまべさもあゝ〜いろあゝん地獄の絵ハ閻魔王
と始め十王冥宮獄卒まで皆唐の姿ふて罪人を悪く日本国の慶
長元和以後の月代剃る姿ふ画立の拙きい絵者の悪ふるい画立の拙きい
あまりある愚昧のあるぎ有さる故ふ其ふ出来
るふも猶ふまを十王ども冥宮獄卒ふいるまで悪くかゝ人の如く

ふしぎ一人ゟ千の勇士所〻ゟ起りて指時ゟ圍城を打ちて戎い数戎いを捕て忽ゟ地獄破却ゟ及びしゟゟふつくりし英雄の勇士い悪く
皇朝人ゟて外戎の張良樊噲關羽張飛ちがのぐぶとびまし民地
獄極楽を始て思ひよりて作りし人ゟもさよわるしの作者でまう
とりける正法念經ゟ閻羅獄卒非實有情以衆生妄業力故
見之とあるゟ證ちり

傍廂巻之三了

特 1
1965

官許　齊藤氏藏板

万延二年酉孟春

發行

書肆

大坂心齊橋博勞町　河内屋茂兵衛
同　久宝寺町　河内屋源七郎
同　心齊橋南江壹丁目　秋田屋市兵衛
江戸日本橋通壹丁目　須原屋茂兵衛
同　通貳丁目　山城屋佐兵衛
同　芝神明前　岡田屋嘉七
同大傳馬町貳丁目　丁子屋平兵衛
同京橋弥左エ門町　大島屋傳右エ門

国立国会図書館　タイトル『傍廂 6巻』　請求記号 特1-1965
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『傍廂 6巻』 請求記号 特1-1965

ガラス使用